

小樽市における ロシア交流動向調査報告書



2002年3月
小樽市港湾部港湾振興室

1. ロシア交流における現状と課題

1991年12月にソ連邦が解体し、独立国家共同体（CIS）が誕生してから11年が経過するなか、ロシアでは当初、政治経済体制の急速な変革に伴う様々な混乱も見受けられましたが、近年は徐々に社会の安定化がはかられ経済活動も活発化する傾向を示しています。

その間、北海道においては地理的特性をいかしロシア・極東地域との様々な交流が積み重ねられてきました。特にサハリン州とのつながりは深く、1994年に函館～ユジノサハリンスク定期航空路線の開設、1995年に稚内～コルサコフ間・小樽～コルサコフ間に定期航路が開設され、航路については1997年から中断時期がありましたが、現在は1999年から稚内～コルサコフ間が、2000年から小樽～ホルムスク間が定期航路で結ばれ、さらに、空路では2001年から千歳～ユジノサハリンスク定期航空路線が加わり、既存の路線を利用して地域間の相互往来が年々活発化しています。

北海道とロシアとの結びつきは貿易の面でも顕著に現れており、日本とロシアとの貿易取引はこの10年の間激減しているものの、北海道とロシアとの取引は倍増しています。

しかし、ロシアとの貿易では、さまざまな課題が残されています。

ロシア貿易では水産物の輸入は大きな割合を占めてはいるものの、冷凍水産物の取扱業者は、道内企業より資金力のある東京方面の専門商社扱いがほとんどであり、また、活水产品については、乱獲による資源の枯渇により、安くて質の良い品物が輸入できなくなる可能性があるとしてされています。また、ロシア政府の密漁防止対策が貿易にどのような影響を与えていくかは不透明な状況にあります。

木材については、質の良い安価な木材が大陸内部にあるものの、伐採からの品質管理や輸送日数の不確実性など、今後解決していかなければならない課題があります。

明るい話題としては、サハリン州における石油・天然ガス開発プロジェクトが進められており、今年の夏ころから本格工事が着手される予定になっております。それに伴いサハリン州の経済力が高まるとともに、建設工事に伴う機材や消費物資などの需要の増加が見込まれ北海道からの輸出の増加が期待されます。

小樽市とロシアの交流は、1966年に小樽市とナホトカ市との間に姉妹都市の提携を行い、少年少女使節団の相互派遣交流や絵画交流展、写真交流展などを行い両市の交流を深めております。

また、1991年には小樽港とホルムスク港との間で姉妹港の提携を行い、昨年に10周年を迎えました。これを機会に小樽市経済使節団がサハリン州を訪問し、今後も小樽～ホルムスク間の定期フェリー航路の利用拡大や両市の友好関係の一層の発展に努めることを確認しました。

さらに、定期フェリー航路は、今年からワニノまで航路延長されることになりました。定期フェリー航路の維持・拡大のためには、今後さらに大陸方面との交流を深め、貨物の増大をはかる必要があります。

2. 調査の目的と概要

(1) 目的

2001年に小樽港に入港した外航船は1,757隻で、そのうちロシア船は1,431隻で、外航船舶数の81%を占めています。

2000年の小樽港におけるロシアとの貿易額は北海道の他港取扱額に比べると最も大きな額となっており、また、毎年3万人前後のロシア人が小樽へ訪れております。

そのような状況において、ロシアとの経済交流が市内にどのような経済効果をもたらしているか、また、来樽ロシア人の動向を把握していくことが、今後のロシアとの経済交流や人的交流の促進、受け入れ体制の充実などに関する諸施策を立案するために必要であることから、今回の調査を実施し、その結果を基礎資料として活用していくものです。

(2) 概要

期 間：2001年11月～2002年2月

内 容：調査は、「小樽市への経済波及推計」と「ロシア人の市内動向について」の2つを中心に実施しました。

方 法：①「経済波及額の推計」については、次による手法により推計しました。

- ・入出国者および特例上陸者の許可数は札幌入国管理局小樽港出張所による。
- ・入港状況については小樽市港湾統計による。
- ・貿易額は函館税関小樽税関支署資料による。
- ・ロシア船が入港することにより発生する荷役料や手数料などは、港湾関係業者や流通関係業者に行ったアンケート調査及び聞き取り調査により、平均的な数値を推定。
- ・市内でのロシア人の個人消費額については、来樽ロシア人に行ったアンケート調査により平均的な数値を推定。

②「市内での動向」については、次による手法により把握しました。

- ・来樽ロシア人に対するアンケート調査を、ふ頭やロシア人向けおたるインフォメーションセンター、運河周辺で実施し239件のサンプルを回収。
- ・中心商店街での動向については、都通り商店街振興組合・サンモール一番街商店街振興組合・花園銀座商店街振興組合・サンポート事業共同組合の商店180店（回答85店）及び市内中心部の飲食店98店（回答57店）に対しアンケート調査を実施。
- ・観光施設の利用やロシア人移動状況については、小樽水族館など主な観光施設やタクシー会社にアンケートを実施。

3. ロシア人の入出国者および特例上陸者の許可数について

2001年の小樽港におけるロシア人の入出国者および特例上陸者の許可数の合計は、札幌入国管理局小樽港出張所によると、1997年に3万人を超えて以来、4年ぶりに3万人台になった。

1997年から5年間の推移を見ると、1998年、1999年と2年続けて前年と比較して減少したものの、2000年、2001年と前年比10%以上の伸びとなり、2001年は概数であるが過去5年のうち最高の33,147人になった。

2001年の月別の推移を見てみると、1～3月の期間は1,000人台と少ないが、4月以降2,000人を超え、7月は夏場のピークを迎える。その後、3,000人前後で推移し12月は4,000人に迫った。

※特例上陸の許可とは次による事例の場合などをいう。

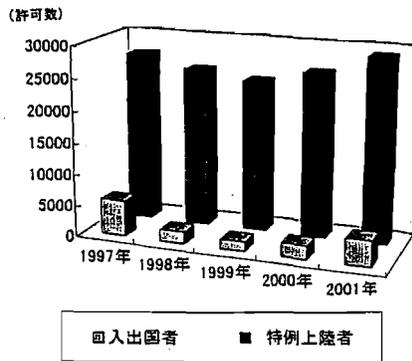
- ・外国人の乗員が船舶等の乗換え、休養、買物などの目的で上陸を許可される。
- ・船舶等に乗っている外国人（乗員を除く）が、当該出入国港の近傍に上陸を許可される。
- ・臨時観光のため上陸を許可される。
- ・疾病その他の事故により治療のため緊急に上陸を許可される。

小樽港のロシア人入出国者および特例上陸者の許可数

	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年
入出国者	5,745	1,912	1,529	2,164	4,112
特例上陸者	27,018	25,183	23,988	26,040	29,035
計	32,763	27,095	25,517	28,204	33,147
前年比	125%	83%	94%	111%	118%

(出典：札幌入国管理局小樽港出張所)

小樽港のロシア人入出国者および特例上陸者の許可数



2001年 月別小樽港のロシア人入出国者および特例上陸者の許可数

月	入国	出国	特例上陸	計
1月	34	42	1,588	1,664
2月	178	126	1,061	1,365
3月	127	172	1,449	1,748
4月	84	86	2,094	2,264
5月	164	82	2,806	3,052
6月	141	153	2,586	2,880
7月	184	272	3,435	3,891
8月	256	267	2,503	3,026
9月	164	169	2,922	3,255
10月	219	227	2,422	2,868
11月	213	207	2,805	3,225
12月	259	286	3,364	3,909
合計	2,023	2,089	29,035	33,147

※再入国許可による入出国数を除く (出典：札幌入国管理局小樽港出張所)

《参考》2001年 ロシアからの貨客船数・乗降客数

月	隻数	乗降客人数
1	3	88
2	4	366
3	6	253
4	7	187
5	9	331
6	7	291
7	9	401
8	9	520
9	9	328
10	9	450
11	8	418
12	7	467
合計	87	4,100

※ただし、乗降客数は国籍を問わず純粋に乗り・降り・一時上陸した人数を計上した数字である。

4. ロシア船入港状況について

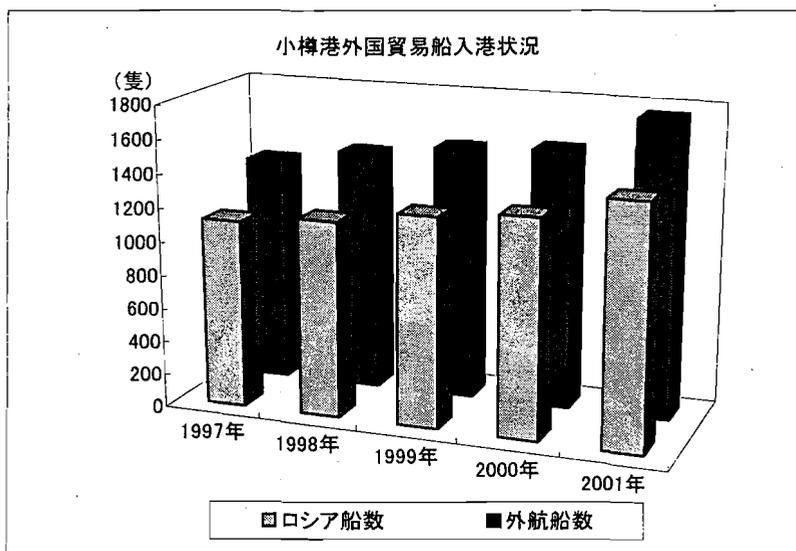
小樽港へのロシア船の入港船数は、1997年から5年間の推移をみると、毎年微増傾向にあり、2001年は2000年より140隻（11%）増えている。

また、月別入港船の傾向としては、1月～3月は80隻を超えない範囲で推移し、年間のなかでもっとも入港が少ない時期である。4月から増加し5月に100隻を超え、7月と12月が多い入港数となっている。

小樽港外国貿易船入港状況

	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年
ロシア船数	1,119	1,163	1,243	1,291	1,431
前年比	109%	104%	107%	104%	111%
外航船数	1,354	1,437	1,507	1,536	1,757

(出典：小樽市港湾統計)



月別ロシア船入港数

(隻)

	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年
1月	39	54	57	63	78
2月	35	58	42	50	54
3月	50	59	59	77	62
4月	83	88	100	95	91
5月	100	116	105	114	133
6月	130	135	97	145	129
7月	140	131	142	147	172
8月	111	111	121	118	124
9月	107	106	126	103	144
10月	108	88	119	108	134
11月	104	98	116	124	146
12月	112	119	159	147	164
合計	1,119	1,163	1,243	1,291	1,431

5. ロシアとの貿易状況について

2001年の北海道とロシアとの貿易額は954億7,779万円であり、そのうち小樽港扱いの貿易額は214億4,824万円と北海道全体の22%にあたり、輸出額は49%、輸入額は21%を占めている。

小樽港の1997年からの貿易額の推移をみると、1998年に前年比17%の減少となったが、その後毎年、前年実績を上回っている。2000年は輸出入の貨物量(P6.表5-2)が前年より減少しているものの貿易額では前年実績を上回り、2001年には輸出入の合計額が200億円を超えた。

貿易額で輸出入別にみると、輸出では1998年、1999年と2年連続して前年実績を下回ったが2000年は前年比22%の増、2001年は25%の増となっている。輸入では1998年は前年実績より減少したものの、1999年は38%増となりその後前年実績を上回っている。

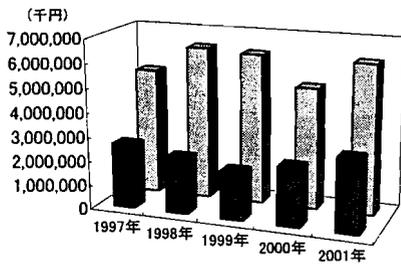
表5-1. ロシアとの貿易額(1996年～2000年)

(単位：千円)

	1997年		1998年		1999年		2000年		2001年	
	輸出額	輸入額								
北海道	5,215,084	82,377,691	6,325,688	70,259,122	6,195,954	82,360,993	4,979,697	91,392,892	6,140,102	89,337,689
合計	87,592,775		76,584,810		88,556,947		96,372,589		95,477,791	
小樽	2,647,883	13,692,463	2,300,521	11,289,673	1,979,705	15,577,271	2,413,102	17,560,927	3,011,749	18,436,494
合計	16,340,346		13,590,194		17,556,976		19,974,029		21,448,243	
小樽が占める割合(%)	51%	17%	36%	16%	32%	19%	48%	19%	49%	21%
合計	19%		18%		20%		21%		22%	

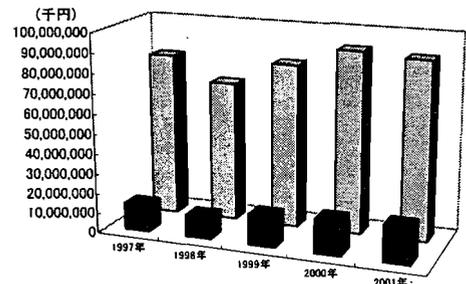
(出典：函館税関外国貿易年表)

ロシアとの貿易額 (輸出)



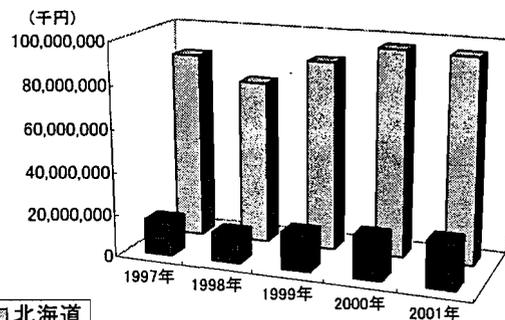
■小樽 □北海道

ロシアとの貿易額 (輸入)



■小樽 □北海道

ロシアとの貿易額 (輸出入合計)



■小樽 □北海道

小樽港取扱貨物の推移（表5-2）は、1996年に輸出・輸入量の合計が10万トンの大台を超えて以来2001年まで続いており、1999年、2000年、2001年の3カ年は、13万トン台を維持している。

輸出については、1994年には5,162トンとなっているが、1995年から2000年まで1万トンから1万4千トン台で推移して、2001年には2万トンを超えた。主な輸出品は輸送・その他機械、ゴム製品（タイヤ）、輸送用容器（ダンボール箱など）などである。

輸入については原木と水産品で大部分を占めている。原木は1992年～1994年まで2万トンから4万トンの間で推移したが、1995年から増加し1999年、2000年は9万トン前後で推移している。水産品は1992年～1995年まで2万トン前後であったが、1996年から3万トン台を維持している。

表5-2. ロシアとの小樽港取扱貨物実績（1992年～2001年）

（単位：トン）

品目	1992年		1993年		1994年		1995年		1996年		1997年		1998年		1999年		2000年		2001年	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
水産品		24,158	213	23,788		23,240	26	19,289	128	30,243	155	33,318	533	36,949	80	30,162	69	36,604	961	36,718
野菜・果物	14	165	127	94	56	87	105	151	305		590		115		9	64	2			9
その他畜産品			681		100						92									
原木		21,889		39,130		28,180		56,232		75,597		71,516		63,497		93,672		85,972		68,730
その他林産品																220				
砂利・砂・石材	2			2				2												
非鉄金属										5	5									
金属製品	1		39						144		11						2		7	
輸送機械	7,944		1,690	4	570		2,393		3,401		7,339		3,343	10	5,725		2,881	4	5,801	2
その他機械	1,851		1,377	1	77		1,106		916	2	552	15	218		171	1	149		4,811	4
重油																				1,705
石油製品	18		3								33		49		62		21			9,591
陶磁器													4							
化学薬品											1						3		3	
その他化学工業品	273		24				4	21					11	2			13		42	
紙・パルプ													19		288		44			
その他繊維工業品	8		31	12	20		22				42				1		4		4	67
砂糖			3		183		29													
その他食料工業品	267		1,136	47			57		22		18	1	79		8	16	118		65	1
日用品	2,795		353	1	167	2	233	5	12	27	96	53	68		39	4	165		39	1
ゴム製品	1,572		602		559		1,438		1,248		1,185		1,396		521		1,611		2,613	
木製品	45		28					323	15		1		11			101		155		63
その他製造工業品	10,329		3,214		547		1,262	30	519	3	704	40	501	5	392	53	489	19	556	30
動植物性製造品	9	1,329		1,040		1,220		626	121	78	68	993	187		60	1,356	20			
輸送用容器	13,697	2	11,499	36	2,883	1	3,079	1	5,210		4,082	20	4,118	27	5,268	33	5,941	80	5,882	258
取合せ品			9				982	16												
分類不能もの		1																		
合計	38,825	47,544	21,029	64,155	5,162	52,730	10,732	76,679	12,062	105,955	14,974	105,956	10,652	100,490	12,615	125,627	11,594	122,836	20,784	117,179
輸出入合計	86,369		85,184		57,892		87,411		118,017		120,930		111,142		138,242		134,430		137,963	

（出典：小樽市港湾統計）

ロシア各港との取引実績（表5-3）については、ナホトカ・ウラジオストック・コルサコフの3港の2000年の貨物取引量はロシアとの全体取引量の37%を占めている。小樽との貿易相手港は、年によりばらつきがあるものの、ナホトカ港・ウラジオストック港・コルサコフ港との取引が多い。

また、各港別との輸出・輸入品は小樽港取扱貨物の傾向と大差ないが、プラストン港については、例年木材の輸入だけであったが、2000年は少量ではあるが、初めて水産品の輸入と輸送用容器の輸出があった。

表5-3. ロシア各港との取引実績(1996年~2000年)

(単位:トン)

港	品種	1996年		1997年		1998年		1999年		2000年	
		輸出	輸入								
コルサコフ	農水産品	416	4,367	691	5,012	115	5,303	22	6,341	80	5,307
	林産品	0	1,536	0	5,039	0	6,832	0	15,945	0	6,589
	金属機械工業品	1,330	1	2,623	15	2,549	10	5,024	1	1,321	2
	化学工業品	21	0	26	0	45	0	44	0	21	0
	軽工業品	22	0	5	1	73	0	4	16	108	0
	雑工業品	166	30	208	53	692	0	154	104	132	174
	特殊品	687	78	741	1,013	909	0	1,670	1,371	926	73
コルサコフ計		2,642	6,012	4,294	11,133	4,383	12,145	6,918	23,778	2,588	12,145
ホルムスク	農水産品	13	1,091	0	3,415	2	2,414	0	533	16	920
	林産品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,236
	金属機械工業品	1,526	0	3,193	0	434	0	0	0	1,566	0
	化学工業品	0	0	6	0	0	2	0	0	0	0
	雑工業品	89	0	154	0	0	5	56	0	64	0
	特殊品	255	0	275	0	460	4	232	0	315	4
ホルムスク計		1,883	1,091	3,628	3,415	896	2,425	288	533	1,961	7,160
ナホトカ	農水産品		2,325	20	2,017		2,782	43	4,195		4,665
	林産品	0	25,570	0	13,888	0	7,338	0	9,847	0	14,843
	金属機械工業品	848	4	604	0	104	0	0	0	2	0
	化学工業品	0	0	1	0	15	0	0	0	1	0
	軽工業品					1		6			
	雑工業品	1,094	0	899	0	749	0	326	0	676	0
特殊品	261		510		247		187		373	1	
ナホトカ計		2,203	27,899	2,034	15,905	1,116	10,120	562	14,042	1,052	19,509
ウラジオストック	農水産品	0	2,782	96	3,352	366	6,267	0	1,866	0	5,343
	林産品		3,472		1,852		6,937		17,991		7,901
	金属機械工業品	36		141		30		4		60	
	化学工業品	0	0	1	0	4	0	0	0	13	0
	軽工業品	0	0	42	0	0	0	5	0	0	0
	雑工業品	87	0	48	0	33	0	0	0	126	0
特殊品	887		478		403		173		370		
ウラジオストック計		1,010	6,254	806	5,204	836	13,204	182	19,857	569	13,244
ワニノ	農水産品		2,327	5	4,638	7	3,737		1,992	2	3,278
	林産品								7,628		8,222
	金属機械工業品	296	0	10	0	4	0	0	0	0	0
	軽工業品					19		86			
	雑工業品	74	0	49	0	10	0	70	41	203	0
	特殊品	226		284		312	2	515		583	
ワニノ計		596	2,327	348	4,638	352	3,739	671	9,661	788	11,500
プラストン	農水産品										144
	林産品		24,665		41,832		15,899		11,837		12,154
	特殊品										16
プラストン計			24,665		41,832		15,899		11,837	16	12,298
その他の港 ・ネベリスク ・ベテロパ ・ロフスク ・オホーツク など	農水産品	4	17,351	25	14,884	158	16,446	15	15,244	35	16,949
	林産品	0	20,354	0	8,905	0	26,491	0	30,644	0	30,027
	金属機械工業品	425	2	1,336	0	440	0	868	0	83	2
	化学工業品	0	0	0	0	0	0	18	0	2	0
	軽工業品	0	0	13	0	5	0	196	0	58	0
	雑工業品	284	0	628	40	492	0	346	13	1,064	0
特殊品	3,015	0	1,862	0	1,974	21	2,551	18	3,378	2	
その他の港計		3,728	37,707	3,864	23,829	3,069	42,958	3,994	45,919	4,620	46,980
合計		12,062	105,955	14,974	105,956	10,652	100,490	12,615	125,627	11,594	122,836

(出典：小樽市港湾統計)

6. ロシア交流における市内への経済波及推計

6-1(1)小樽港輸出・輸入貿易取扱額

2001年の小樽港のロシア貿易額については輸出額30億1,174万9千円で、主な品目は紙類及び同製品や織物用糸及び繊維製品となっている。また、輸入は184億3,649万4千円で、主な品目は魚介類及び同調製品や木材となっており、輸出入合計額は214億4,824万3千円となっている。

小樽港輸出貿易取扱額(ロシア)

	1997年			1998年			1999年			2000年			2001年		
	数量	単位	貿易額(千円)												
ゴム製品	1,003	トン	116,207	679	トン	112,161									
ゴムタイヤ及びチューブ			106,433				551,602	kg	63,343	1,268,291	kg	122,985	1,636,929	kg	170,932
紙類及び同製品	2,716	トン	626,522	2,570	トン	614,519									
紙袋・紙テープ及び紙タオル	2,703,827	kg	619,846	2,554,676	kg	604,285	2,930,299	kg	655,584	3,585,980	kg	721,483	3,299,283	kg	711,706
織物用糸及び繊維製品			338,637			302,086									
繊維二次製品(除衣類)						302,086			289,663			363,598			592,182
漁網	387,496	kg	302,202	436,551	kg	268,788	458,841	kg	266,389						
金属製品			48,345												50,355
一般機械			351,716			239,237			167,958						
原動機							167,956	kg	31,642	177,516	kg	50,813	150,517	kg	27,951
建設用・鉱山用機械									58,432			241,463			295,683
電気機器			155,675			116,317			220,979						
通信機									123,573			48,565			33,271
自動車	415	台	413,158	375	台	357,255	105	台	162,180	203	台	206,691	1,050	台	409,242
自動車の部分品			49,282												13,990
プラスチック製品	368,476	kg	197,346	383,643	kg	167,907	354,910	kg	163,536	330,343	kg	158,036	312,980	kg	154,885
再輸出品			30,770			127,567			48,158			142,685			
その他			369,507			263,472			208,304			356,783			551,552
合計			2,647,883			2,300,521			1,979,705			2,413,102			3,011,749

小樽港輸入貿易取扱額(ロシア)

	1997年			1998年			1999年			2000年			2001年		
	数量	単位	貿易額(千円)	数量	単位	貿易額(千円)	数量	単位	貿易額(千円)	数量	単位	貿易額(千円)	数量	単位	貿易額(千円)
魚介類及び同調製品	19,267	トン	12,567,287	19,109	トン	10,608,060	27,866	トン	14,430,083	19,881	トン	16,400,867	25,375	トン	17,256,499
魚介類(生鮮・冷凍)				0	kg	18,962,201	10,404,391	kg	27,526,420	13,696,362	kg	19,498,847	15,778,158	kg	25,016,554
さけ及びます(生鮮・冷凍)	3,763,822	kg	1,168,719										4,291,917	kg	1,757,403
甲殻類及び軟体動物	9,165,183	kg	8,482,818										14,485,530	kg	11,768,616
魚介類の調製品	121	トン	228,282	146	トン	203,669	339	トン	460,721	382	トン	622,709	358,682	kg	531,401
木材			1,044,567			627,995			1,058,515			1,064,722			769,131
その他			80,609			53,618			88,673			95,338			410,864
合計			13,692,463			11,289,673			15,577,271			17,560,927			18,436,494

(出典：函館税関外国貿易年表)

6-(2)ロシア人アンケート調査による個人消費額

ロシア人の小樽での消費額は、ひとり平均192千円（回答金額の総額を回答件数で除した数字）となっている。2001年の小樽港のロシア人出国者および特例上陸者の許可数（P3. 表中数字2,089+29,035）31,124件を来樽ロシア人の人数と推定する。

このことから、 $192\text{千円} \times 31,124\text{人} = 59\text{億}7,580\text{万}8\text{千円}$ が小樽で消費されたと推定される。

6-(3)船舶代理店手数料・通関手数料・荷役料

ロシア船の入港に伴う船舶代理店手数料・通関手数料・荷役料については、市内関係企業のアンケート調査や聞き取り調査から、平均金額を1隻あたり800千円と推定する。

2001年の小樽港へのロシア船入港隻数は1,431隻である。

このことから、 $800\text{千円} \times 1,431\text{隻} = 11\text{億}4,480\text{万円}$ が手数料と推定される。

6-(4)保税倉庫関係使用料

貨物の保管に伴う使用料については、市内関係企業のアンケート調査や聞き取り調査から、入港船の市内で取扱う割合を70%とし、平均金額を1隻あたり80千円の使用料と推定する。

このことから、 $80\text{千円} \times (1,431\text{隻} \times 70\%) = 8,013\text{万}6\text{千円}$ が倉庫使用料と推定される。

6-(5)輸送料

2001年の小樽港の輸出入の取扱い貨物量は137,963トンである。輸送料は積載貨物の種類や長距離・短距離など様々な要素があるが、関係企業からの聞き取り調査から、1トンあたり4千円と推定する。

このことから、 $137,963\text{トン} \times 4\text{千円} = 5\text{億}5,185\text{万}2\text{千円}$ が輸送料と推定される。

6-(6)タクシー料金

ロシア人のタクシー使用料金については、市内関係企業のアンケート調査や聞き取り調査から、1台の車が月平均2回程度ロシア人を乗車させるとし、1回の乗車金額を700円と推定する。市内のタクシー台数は530台とする。

このことから、 $530\text{台} \times 2\text{回} \times 700\text{円} \times 12\text{ヶ月} = 890\text{万}4\text{千円}$ がタクシーの乗車料金と推定される。

6-(7)燃料業者、食料調達業者取扱額

ロシア船の燃料給油は、割安の韓国製燃料をロシアで給油しているため、日本で給油しない傾向になっている。市内関係企業のアンケート調査や聞き取り調査から、給油するロシア船の割合を15%、平均金額を1隻あたり400千円と推定する。

このことから、 $1,431 \text{隻} \times 15\% \times 400 \text{千円} = 8,586 \text{万円}$ の給油があると推定される。

食料・船用品関係については、市内関係企業のアンケート調査や聞き取り調査から、入港船の90%の船が小樽で調達しているものと見なし、平均金額を1隻あたり300千円の購入額があると推定する。

このことから、 $1,431 \text{隻} \times 90\% \times 300 \text{千円} = 3 \text{億}8,637 \text{万円}$ の購入があると推定される。

6-(8)自動車(携帯品)取扱額

小樽港から持ち出される携帯品扱いの自動車台数を過去の実績から年間1万3千台と推定し、関係企業からの聞き取り調査から1台平均450千円と推定する。

このことから、 $450 \text{千円} \times 13,000 \text{台} = 58 \text{億}5 \text{千万円}$ の売上げが推定される。

6-(9)入港料及び港湾施設使用料

ロシア船の入港に伴い発生する港湾施設関係経費は、

入港料：1,133千円

けい船料：27,064千円

ひき船使用料：1,919千円

船舶給水使用料：7,648千円

合計37,764千円となる。

6-(10)推計額のまとめ

今回の調査結果の「小樽港取扱い貿易輸入額」、「小樽港取扱い貿易輸出額」「入港料及び港湾施設使用料」については実数値ですが、他の項目の手数料などは関係企業からのアンケート調査や聞き取り調査の結果をもとに算出した平均推定の数字です。

また、そこから発生する経済効果までの調査に及んでいません。概ねこの程度の金額は動いているだろうということを推定したものです。

項 目	金 額 (千円)
小樽港取扱い貿易輸入額	18,436,494
小樽港取扱い貿易輸出額	3,011,749
ロシア人の個人消費額	5,975,808
船舶代理店・通関・荷役料	1,144,800
保税倉庫関係使用料	80,136
輸送料	551,852
燃料代金	85,860
食料・船舶用品扱い額	386,370
入港料及び港湾施設使用料	37,764
合 計	29,710,833

※「自動車（携帯品）取扱い額」及び「タクシー料金」については、「ロシア人の個人消費額」に一部含まれているものと考えられますので、全体数字に算入していません。

自動車（携帯品）取扱い額	5,850,000
タクシー料金	8,904

7. ロシア人の市内動向について

7- (1) ロシア人アンケート調査による動向

アンケート調査は2001年11月から2002年2月の期間に、ふ頭やロシア人向けおたるインフォメーションセンター、運河周辺でロシア人に実施した。アンケート回収件数は239件となっている。

【性別・年代別構成】

この項目の回答は233件である。

性別の構成は、男性173人(74%)、女性60人(26%)となっているが、貨客船での男女比率は男性33人(36%)、女性59人(64%)になり、女性の場合客船に乗船してきてる場合がほとんどである。

年代別では、多い方から30代が82人(35%)、40代が55人(24%)、20代が48人(21%)となっている。

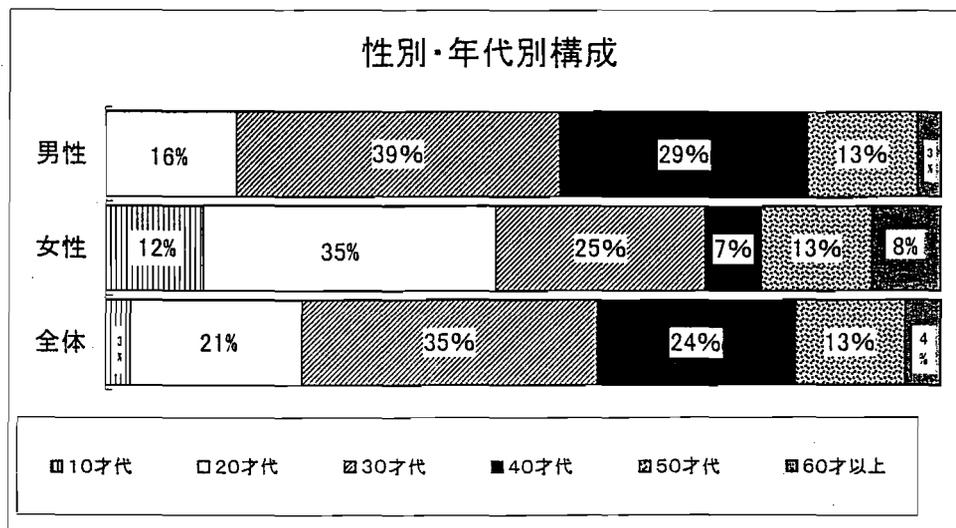
男女別では、男性は30代が67人(39%)、40代が51人(29%)、20代が27人(16%)で、女性では、20代が21人(35%)、30代が15人(25%)、50代が8人(13%)という順になっている。

性別・年代別構成

		10才代	20才代	30才代	40才代	50才代	60才以上	合計
男性	(人)	0	27	67	51	23	5	173
	(割合)	0%	16%	39%	29%	13%	3%	
女性	(人)	7	21	15	4	8	5	60
	(割合)	12%	35%	25%	7%	13%	8%	
全体	(人)	7	48	82	55	31	10	233
	(割合)	3%	21%	35%	24%	13%	4%	

貨客船で来樽したロシア人の性別・年代別構成

	10才代	20才代	30才代	40才代	50才代	60才以上	合計
男性	0	7	14	9	2	1	33
女性	7	21	15	4	8	4	59
全体	7	28	29	13	10	5	92



【出身地】

この項目の回答は230件である。

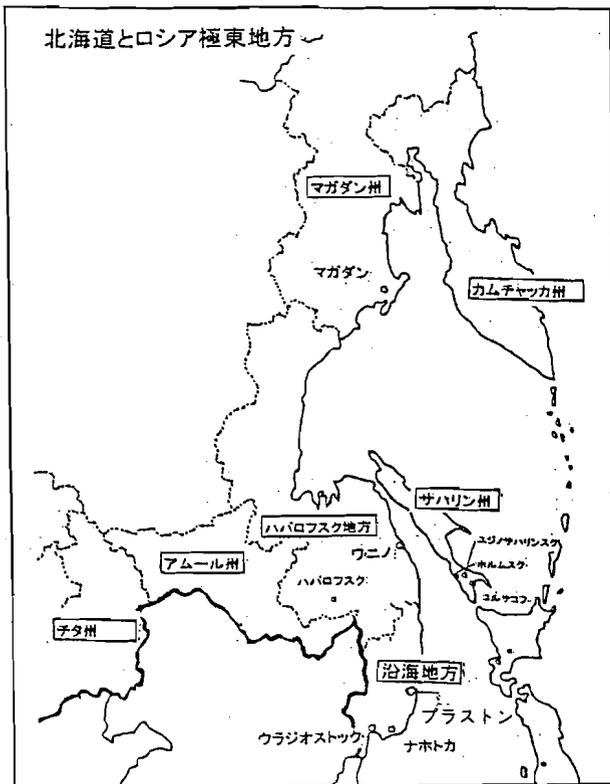
このうち、サハリン州から来た貨客船2隻から87件の回答を得ており、その乗船客のほとんどがサハリン州の出身者であるため総体で見ると、調査結果の傾向にかたよりが出するため、貨客船の結果とその他の船での結果を分けて傾向を見る。

その他の船の調査結果で、最も多い地域では沿海地方から76人(53%)、次いでサハリン州59人(42%)、ハバロフスク地方2人(1%)、カムチャッカ州2人(1%)、その他4人(3%)となっている。都市別では、ウラジオストック市40人、ナホトカ市17人、ホルムスク市6人の順となっている。

次にサハリン州から来た旅客船の乗客については、ユジノサハリンスク市36人、ホルムスク市22人、その他29人と約67%がユジノサハリンスク市とホルムスク市に集中している。

出身地

出身地	都市名	サハリンからの貨客船		その他の船		合計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
サハリン州		84	97%	59	42%	143	62%
	ユジノサハリンスク市	36	43%	3	5%	39	27%
	ホルムスク市	22	27%	6	10%	28	20%
	コルサコフ市	1	1%	2	3%	3	2%
	その他	25	29%	48	82%	73	51%
沿海地方		1	1%	76	53%	77	33%
	ナホトカ市	1	100%	17	22%	18	23%
	ウラジオストック市	0	0%	40	53%	40	52%
	その他	0	0%	19	25%	19	25%
ハバロフスク地方		0	0%	2	1%	2	1%
カムチャッカ州		0	0%	2	1%	2	1%
その他		2	2%	4	3%	6	3%



【小樽の滞在日数・ホテル宿泊】

この項目の回答は232件である。

小樽での滞在日数については、4日が68人（29%）、3日が58人（25%）、2日が43人（19%）となっている。

男女別で、男性は3日が44人（25%）、2日が41人（24%）、4日が33人（19%）で、女性は、4日が35人（61%）、3日が14人（24%）の順になっている。

ホテルなどの宿泊施設の場所については、19人が利用したと回答しており、その内市外が17人、市内が2人となっている。

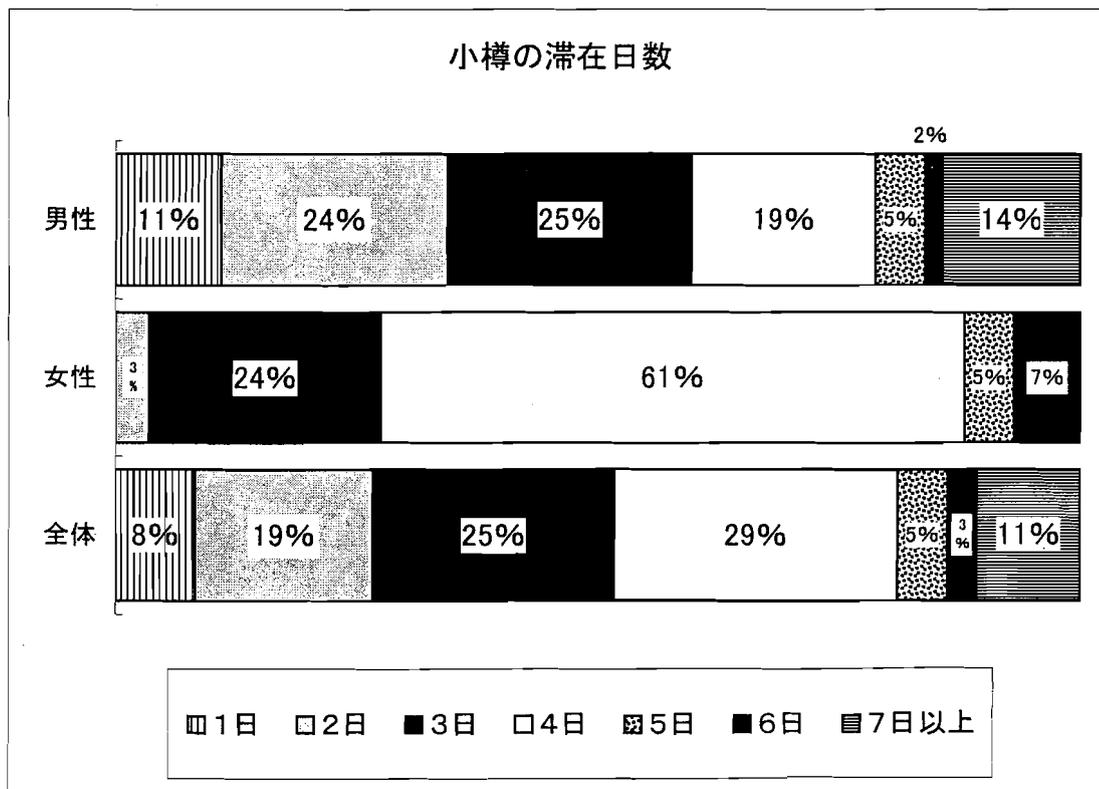
男女別では、男性は市外が14人、市内が1人となっており、女性では市外が3人、市内が1名となっている。

小樽の滞在日数

		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日以上	合計
男性	(人)	19	41	44	33	9	3	25	174
	(割合)	11%	24%	25%	19%	5%	2%	14%	
女性	(人)	0	2	14	35	3	4	0	58
	(割合)	0%	3%	24%	61%	5%	7%	0%	
全体	(人)	19	43	58	68	12	7	25	232
	(割合)	8%	19%	25%	29%	5%	3%	11%	

ホテル宿泊 (単位：人)

	小樽市内	小樽市外	合計
男性	1	14	15
女性	1	3	4
全体	2	17	19



【来樽目的と回数】

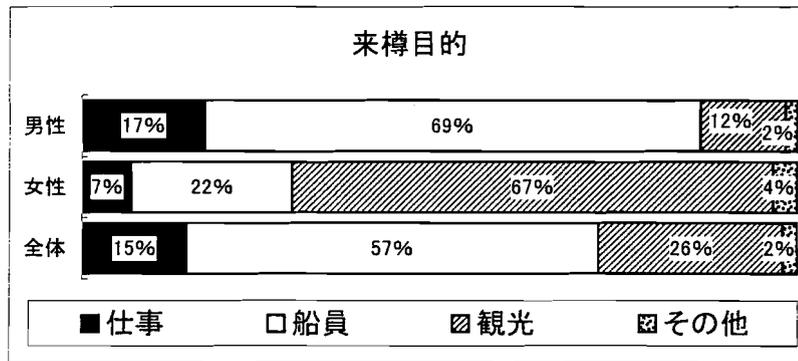
この項目で来樽目的の回答は233件で、回数の回答は232件である。

来樽目的については、仕事（船員含む）が168人（72%）、観光が60人（26%）、その他が5人（2%）となっており、来樽回数は、3回以上が157人（68%）、初めてが54人（23%）、2回目が21人（9%）となっている。

男女別では、男性の来樽目的は仕事（船員含む）が151人（86%）、観光が21人（12%）、その他が3人（2%）で、来樽回数は、3回以上が129人（75%）、初めてが30人（18%）、2回目が12人（7%）となっており、女性の来樽目的は、観光が39人（67%）、仕事（船員含む）が17人（29%）、その他が2人（4%）で、来樽回数は、3回以上が28人（46%）、初めてが24人（39%）、2回目が9人（15%）となっている。

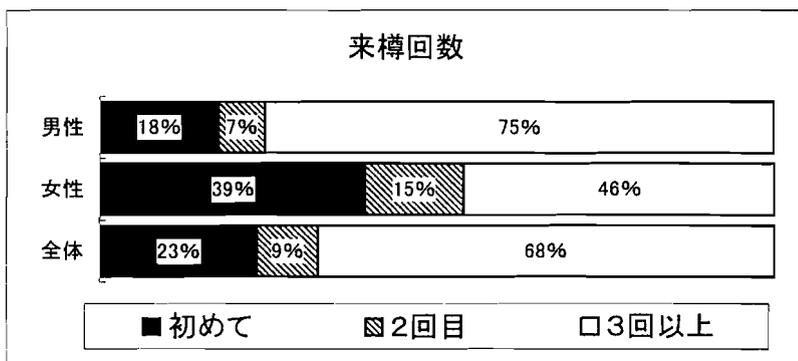
来樽目的

		仕事	船員	観光	その他	合計
男性	(人)	30	121	21	3	175
	(割合)	17%	69%	12%	2%	
女性	(人)	4	13	39	2	58
	(割合)	7%	22%	67%	4%	
全体	(人)	34	134	60	5	233
	(割合)	15%	57%	26%	2%	



来樽回数

		初めて	2回目	3回以上	合計
男性	(人)	30	12	129	171
	(割合)	18%	7%	75%	
女性	(人)	24	9	28	61
	(割合)	39%	15%	46%	
全体	(人)	54	21	157	232
	(割合)	23%	9%	68%	



【職業】

この項目の回答は228件であり、複数回答があるので割合は228件に対するものとする。

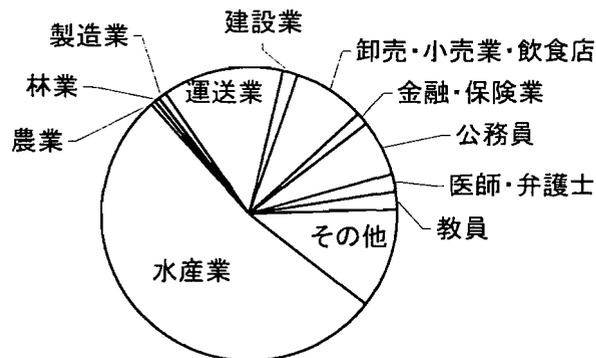
職業については、一番多いのは水産業で129人(57%)、次いで運送業が33人(14%)、卸売・小売業・飲食店が19人(8%)という順になっている。

男女別では、男性は水産業が126人(72%)、運送業が27人(15%)、卸売・小売業・飲食店が10人(6%)で、女性はその他が17人(32%)、公務員が10人(19%)、卸売・小売業・飲食店が9人(17%)、の順になっている。

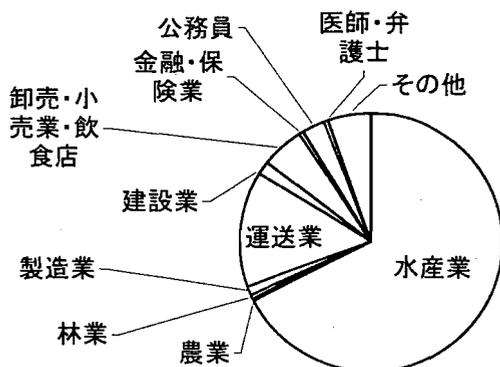
職業

	水産業	農業	林業	製造業	運送業	建設業	卸売・小売業・飲食店	金融・保険業	公務員	医師・弁護士	教員	その他	回答合計	サンプル数
男性 (人)	126	1	1	2	27	3	10	1	5	1	0	10	187	175
(割合)	72%	1%	1%	1%	15%	2%	6%	1%	3%	1%	0%	6%		
女性 (人)	3	1	0	0	6	1	9	2	10	4	5	17	58	53
(割合)	6%	2%	0%	0%	11%	2%	17%	4%	19%	8%	9%	32%		
全体 (人)	129	2	1	2	33	4	19	3	15	5	5	27	245	228
(割合)	57%	1%	0%	1%	14%	2%	8%	1%	7%	2%	2%	12%		

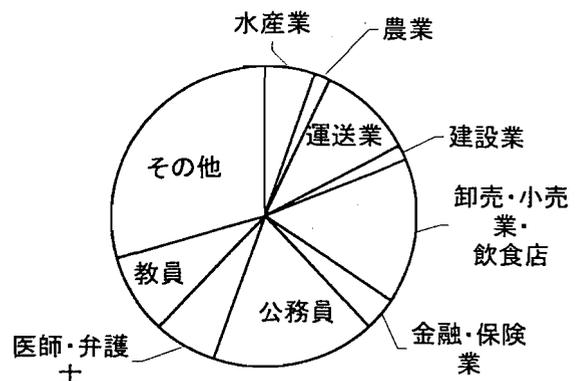
職業(全体)



職業(男性)



職業(女性)



※円グラフは回答合計に対する割合

【年 収】

この項目の回答は207件である。

2000年の年収については、50,000ルーブル以下が89人(43%)、50,001~100,000ルーブル以下が76人(37%)、100,001~200,000ルーブル以下が24人(12%)の順になっており80%の人が年収100,000ルーブル以下となっている。

男女別について、男性は50,000ルーブル以下が64人(39%)、50,001~100,000ルーブル以下が62人(38%)、100,001~200,000ルーブル以下が21人(13%)の順になっており、女性は50,000ルーブル以下が25人(58%)、50,001~100,000ルーブル以下が14人(33%)、100,001~200,000ルーブル以下が3人(7%)の順になっている。

※2002年3月27日現在

1ルーブル=4.26円

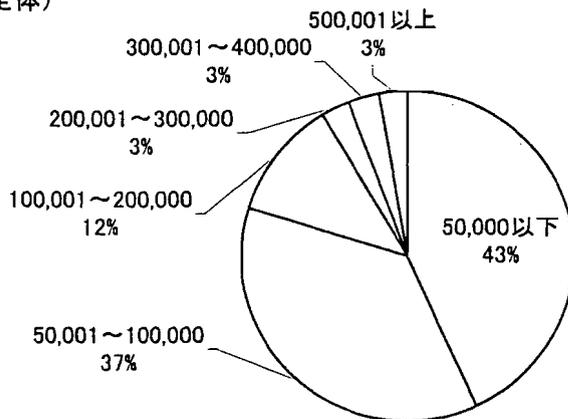
年収

(単位:ルーブル)

	50,000以下	50,001~100,000	100,001~200,000	200,001~300,000	300,001~400,000	400,001~500,000	500,001以上	合計
男性	(人) 64	62	21	5	6	0	6	164
	(割合) 39%	38%	13%	3%	4%	0%	4%	
女性	(人) 25	14	3	1	0	0	0	43
	(割合) 58%	33%	7%	2%	0%	0%	0%	
全体	(人) 89	76	24	6	6	0	6	207
	(割合) 43%	37%	12%	3%	3%	0%	3%	

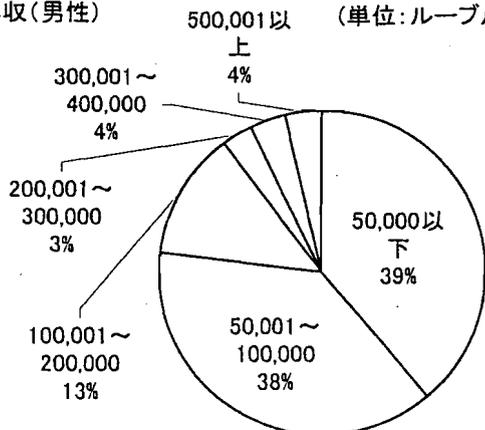
年収(全体)

(単位:ルーブル)



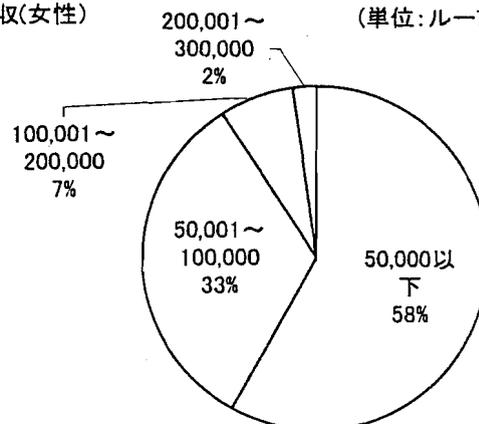
年収(男性)

(単位:ルーブル)



年収(女性)

(単位:ルーブル)



【消費動向】

《所持金》

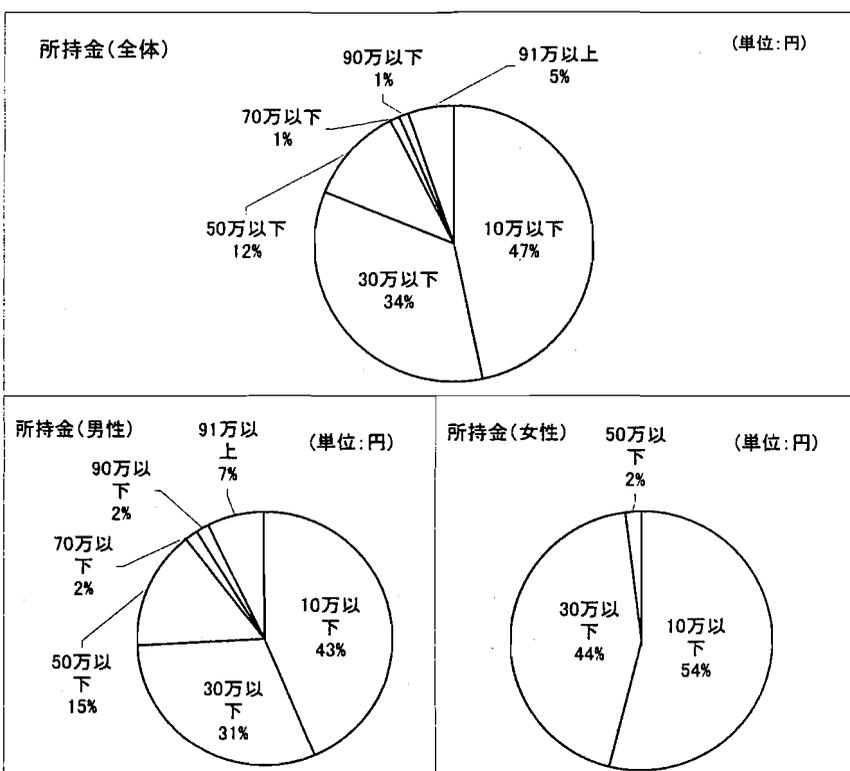
この項目の回答は174件である。ロシア人の所持金は平均259,000円（回答金額の総額を回答件数で除した数字）となっており、10万円以下が81人（47%）、10万円を超え30万円以下が60人（34%）、30万円を超え50万円以下が20人（12%）、50万円を超え70万円以下が2人（1%）、70万円を超え90万円以下が2人（1%）、91万円以上が9人（5%）となっている。

男女別で、男性は10万円以下が54人（43%）、10万円を超え30万円以下が38人（31%）、30万円を超え50万円以下が19人（15%）、50万円を超え70万円以下が2人（2%）、70万円を超え90万円以下が2人（2%）、91万円以上が9人（7%）となっており。

女性は10万円以下が27人（54%）、10万円を超え30万円以下が22人（44%）、30万円を超え50万円以下が1人（2%）となっている。

所持金(円)

	10万以下	30万以下	50万以下	70万以下	90万以下	91万以上	合計
男性 (人)	54	38	19	2	2	9	124
(割合)	43%	31%	15%	2%	2%	7%	
女性 (人)	27	22	1	0	0	0	50
(割合)	54%	44%	2%	0%	0%	0%	
全体 (人)	81	60	20	2	2	9	174
(割合)	47%	34%	12%	1%	1%	5%	



《消費額》

この項目の回答は159件である。

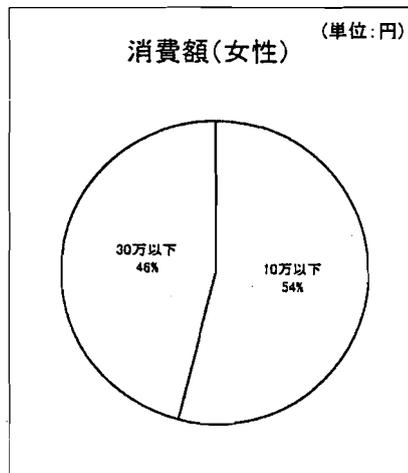
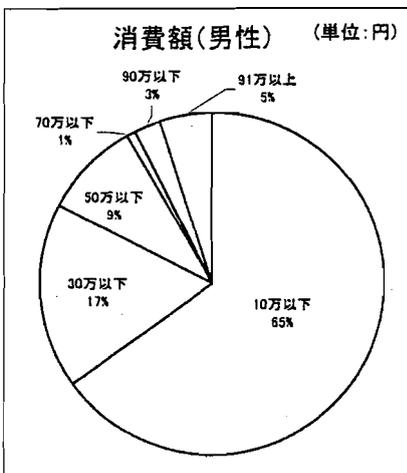
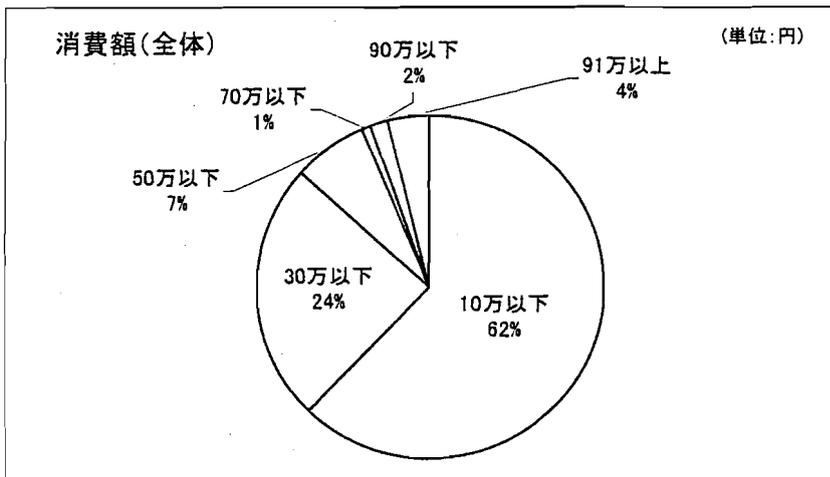
小樽市内でのロシア人の消費額は平均192,367円(回答金額の総額を回答件数でした数字)となっており、10万円以下が99人(62%)、10万円を超え30万円以下が39人(24%)、30万円を超え50万円以下が11人(7%)、50万円を超え70万円以下が1人(1%)、70万円を超え90万円以下が3人(2%)、91万以上が6人(4%)となっている。

男女別で、男性は10万円以下が78人(65%)、10万円を超え30万円以下が21人(17%)、30万円を超え50万円以下が11人(9%)、50万円を超え70万円以下が1人(1%)、70万円を超え90万円以下が3人(3%)、91万以上が6人(5%)となっており。

女性は、10万円以下が21人(54%)、10万円を超え30万円以下が18人(46%)となっている。

消費額(円)

		10万以下	30万以下	50万以下	70万以下	90万以下	91万以上	合計
男性	(人)	78	21	11	1	3	6	120
	(割合)	65%	17%	9%	1%	3%	5%	
女性	(人)	21	18	0	0	0	0	39
	(割合)	54%	46%	0%	0%	0%	0%	
全体	(人)	99	39	11	1	3	6	159
	(割合)	62%	24%	7%	1%	2%	4%	



《消費動向》

この項目の回答は127件であり、複数回答があるので割合は127件に対するものとする。

小樽市内での消費動向について、「買い物」、「飲食」、「観光」、「宿泊」にどの位お金を使ったかでは、「買い物」が123人（97％）で ※平均消費額143,000円、「飲食」が55人（43％）で ※平均消費額25,000円、「観光」が27人（21％）で ※平均消費額34,000円、「宿泊」が5人（4％）で ※平均消費額26,000円となっている。

男女別で、男性は「買い物」が98人（98％）で ※平均消費額164,000円、「飲食」が40人（40％）で ※平均消費額27,000円、「観光」が11人（11％）で ※平均消費額51,000円、「宿泊」が1人（1％）で消費額12,000円となっている。

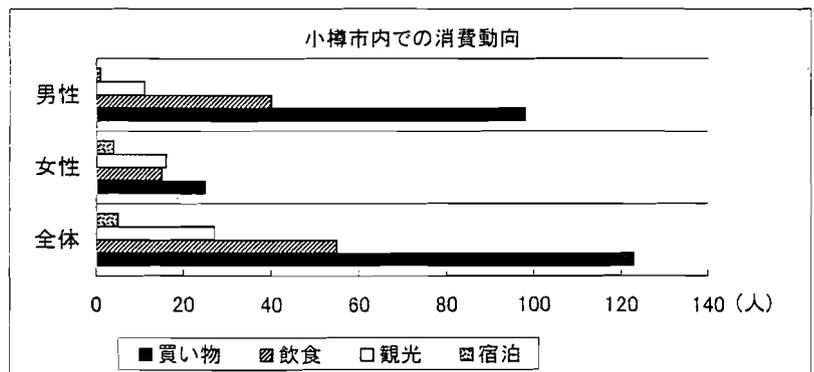
女性は「買い物」が25人（93％）で ※平均消費額60,000円、「飲食」が15人（56％）で ※平均消費額19,000円、「観光」が16人（59％）で ※平均消費額21,000円、「宿泊」が4人（15％）で ※平均消費額29,000円となっている。

この結果、男性は「買い物」に消費する割合が高くなっており、女性は「買い物」、「飲食」、「観光」と幅広く行動が広がっているのが特徴である。

※ 回答金額の総額を回答件数で除した数字

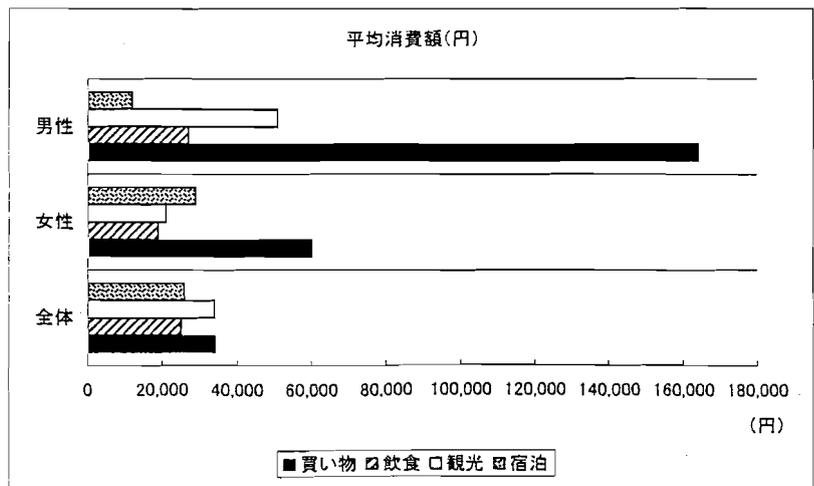
小樽市内での消費動向

	買い物	飲食	観光	宿泊	回答合計	サンプル数
男性 (人数)	98	40	11	1	150	100
(割合)	98%	40%	11%	1%		
女性 (人数)	25	15	16	4	60	27
(割合)	93%	56%	59%	15%		
全体 (人数)	123	55	27	5	210	127
(割合)	97%	43%	21%	4%		



平均消費額 (円)

	買い物	飲食	観光	宿泊
男性	164,000	27,000	51,000	12,000
女性	60,000	19,000	21,000	29,000
全体	34,000	25,000	34,000	26,000



《購入品》

この項目の回答は190件であり、複数回答があるので割合は190件に対するものとする。

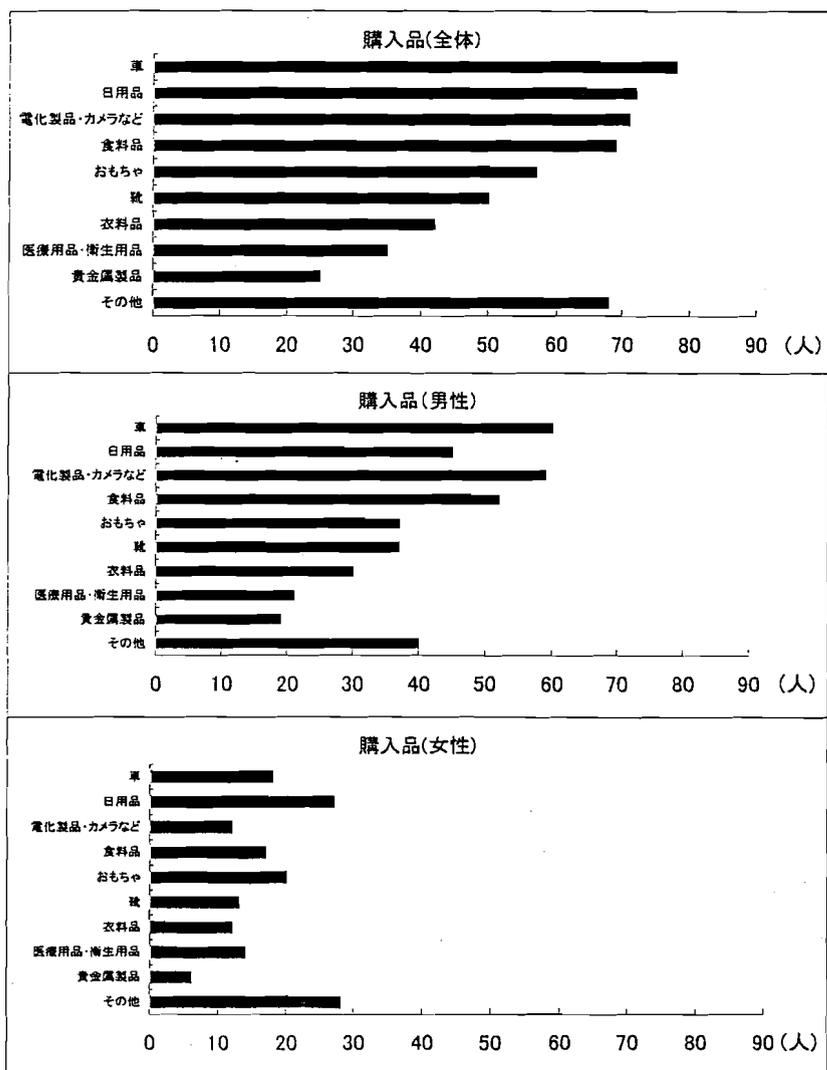
購入品別については、割合の高い順から「車」が78人（41%）、「日用品」が72人（38%）、「電気製品・カメラなど」が71人（37%）、「食料品」が69人（36%）となっている。

男女別で、男性は「車」が60人（43%）、「電気製品・カメラなど」が59人（42%）、「食料品」が52人（37%）、「日用品」が45人（32%）となっており。

女性は「日用品」が27人（53%）、「おもちゃ」が20人（39%）、「車」が18人（35%）、「食料品」が17人（33%）との順になっている。

購入品

	車	日用品	電気製品・カメラなど	食料品	おもちゃ	靴	衣料品	医療用品・衛生用品	貴金属製品	その他	サンプル数
男性	60	45	59	52	37	37	30	21	19	40	139
	(割合) 43%	32%	42%	37%	27%	27%	22%	15%	14%	29%	
女性	18	27	12	17	20	13	12	14	6	28	51
	(割合) 35%	53%	24%	33%	39%	25%	24%	27%	12%	55%	
全体	78	72	71	69	57	50	42	35	25	68	190
	(割合) 41%	38%	37%	36%	30%	26%	22%	18%	13%	36%	



《買い物などで立ち寄る場所》

この項目の回答は190件であり、複数回答があるので割合は190件に対するものとする。

小樽市内で立ち寄る場所が多い順は、「ホームック」が121人（64%）、「免税店」が94人（49%）、「商店街」が92人（48%）、「運河及び運河周辺」が86人（45%）、「長崎屋」が72人（38%）となっている。

男女別で、男性は「ホームック」が94人（68%）、「免税店」が76人（55%）、「商店街」が70人（50%）、「長崎屋」が58人（42%）、「運河及び運河周辺」が57人（41%）となっている。

女性は「運河及び運河周辺」が29人（57%）、「ホームック」が27人（53%）、「小樽水族館」が23人（45%）、「商店街」が22人（43%）、「マイカル小樽」が21人（41%）との順になっている。

買い物などで立ち寄る場所

	ホームック	免税店	商店街	運河及び運河周辺	長崎屋	ビクトリアステーション	マイカル小樽	おたる水族館	小樽市博物館	ガラス・オルゴール堂	小樽市外	丸井今井	小樽交通記念館	養老の麓	その他	サンプル数
男性 (人)	94	76	70	57	58	53	35	17	22	18	9	10	12	5	32	139
(割合)	68%	55%	50%	41%	42%	38%	25%	12%	16%	13%	6%	7%	9%	4%	23%	
女性 (人)	27	18	22	29	14	18	21	23	11	12	18	12	5	3	20	51
(割合)	53%	35%	43%	57%	27%	35%	41%	45%	22%	24%	35%	24%	10%	6%	39%	
合計 (人)	121	94	92	86	72	71	56	40	33	30	27	22	17	8	52	190
(割合)	64%	49%	48%	45%	38%	37%	29%	21%	17%	16%	14%	12%	9%	4%	27%	

【案内所】

この項目の回答は203件である。

中央ふ頭基部にあるロシア人向けおたるインフォメーションセンター（案内所）の知名度調査の結果は、「知っている」もしくは「利用したことがある」が142人（70%）、「知らない」が61人（30%）となっている。

男女別で、男性は「知っている」もしくは「利用したことがある」が124人（83%）、「知らない」が26人（17%）となっており。

女性は「知っている」もしくは「利用したことがある」が18人（34%）、「知らない」が35人（66%）となっている。

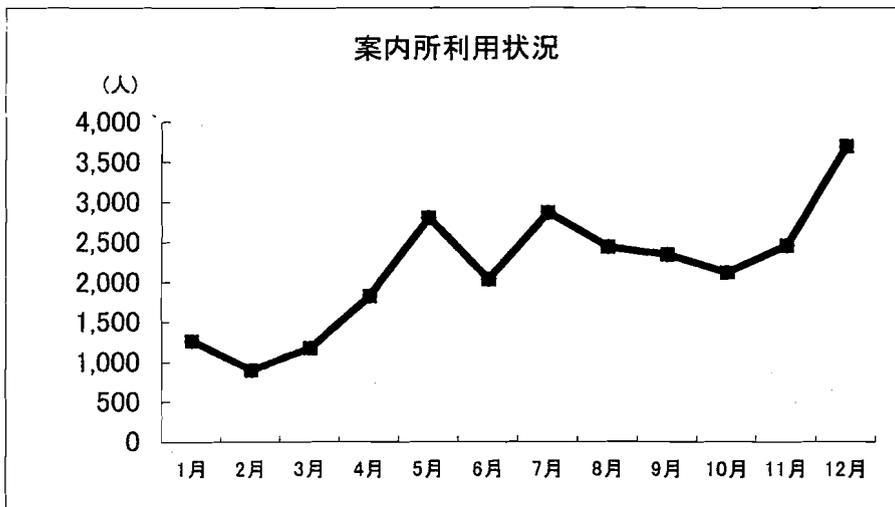
案内所

	知っている 利用した	知らない	合計
男性 (人) (割合)	124 83%	26 17%	150
女性 (人) (割合)	18 34%	35 66%	53
全体 (人) (割合)	142 70%	61 30%	203

〈参考〉 2001年 案内所利用状況

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
延べ人数	1,267	903	1,176	1,828	2,804	2,035	2,870	2,438	2,339	2,122	2,452	3,695	25,929

(出典：小樽市総務部国際交流調べ)



【ロシア人の小樽のイメージ】

この項目の回答は204件である。

「小樽で困ったこと」や、「小樽に対する要望や意見」を記入してもらった結果、小樽に対するイメージは好意的な意見が112件（55%）で、ロシア人の小樽に対する印象はかなり良いことがわかった。

提言や困った事では、「言葉が通じない」が一番多く35件（17%）、次に「特に困ったことはない」が15件（7%）、「物価が高い」が11件（5%）、「街にロシア語の表記が欲しい」が3件（1%）という意見が続く。

小樽に対する要望や意見

分類	意見	件数
好意的	すべて素晴らしい。ありがとうございます。	36
	ご家族の健康、ご成功、最善をお祈りします。	21
	今後も繁栄がつづくように	13
	友好と平和がつづくように。	9
	客をあたたくもてなすまち。	7
	今の水準を続けてほしい。	6
	好意的態度がよい。	5
	小樽市を気に入りました。	4
	とても美しい街です。	3
	まあまあよい	3
	とても清潔な街で人々の心づかいがゆきとどいてます。	2
	もう一度来たい。	2
	我々の側で色々よくないことがあるが、私達に対する態度は満足している。	1
合計		112
提言・ 困った事	言葉が通じない	
	言葉の壁。言葉が通じないこと。	35
	ロシア語をもっと勉強してほしい。	1
	店にロシア語を話せる人がいればいい。	1
	日本人が英語を知らないこと。	1
	日本の制度	
	物価が高い。	11
	パスポートの提示	2
	税金が高い。	2
	船の乗務員全てに上陸許可証を与えて欲しい。	1
	施設の整備・受け入れ態勢	
	ロシア語表記をもっと街にほしい。	3
	札幌などへバス旅行ツアーがあればよい。	2
	ロシア語の街の地図が欲しい。	1
	小樽の街がわからない。	1
	インフォメーションセンター近くに、歩行者の為に信号機が欲しい。	1
	小樽市内に行くときタクシーが船まで来てくれるとよい。	1
	船員のために大きな保養センターがあればよい。	1
	もっと娯楽がほしい。	1
	テルメとジンギスカン汗鍋が再開すればよい。	1
	図書館が欲しい。	1
	ロシア人向けの店が遠い。	1
	店で買い物するとき、ロシア人割引してほしい。	1
	店で私が何か盗むのではないかと、後をつけられるのはいやだ。	1
	その他	
	歩道の雪を除雪してほしい。	2
	食事の味付けがうすい。	1
	年輩者をケアする気持ちを持って欲しい。	1
	魚製品を適正価格で引き取ってほしい。	1
	ロシア人船員との関係がよくなるように望む。	1
	お金が足りなかったこと。	1
特に困ったことはない	15	
合計		92

7-(2) タクシー業者へのアンケート調査による動向

ロシア人のタクシー利用については、船の接岸場所～堺町界限・ホームック・花園商店街区間の利用が多く、市街地間の移動の利用は少ない傾向である。

ロシア人の1回の平均利用金額は600円～800円程度であり、また、利用回数は月平均1,000回程度である。

7-(3) 商業者・飲食店へのアンケート調査による動向

アンケート調査は2001年11月から2002年2月の期間に、商業者については中心商店街180店、飲食店については中心市街地から任意抽出した98店に対し実施した。

回答については、商業者が85店（回収率47.2%）で飲食店が57店（回収率58%）であった。

【商業者】

《ロシア人来客数》

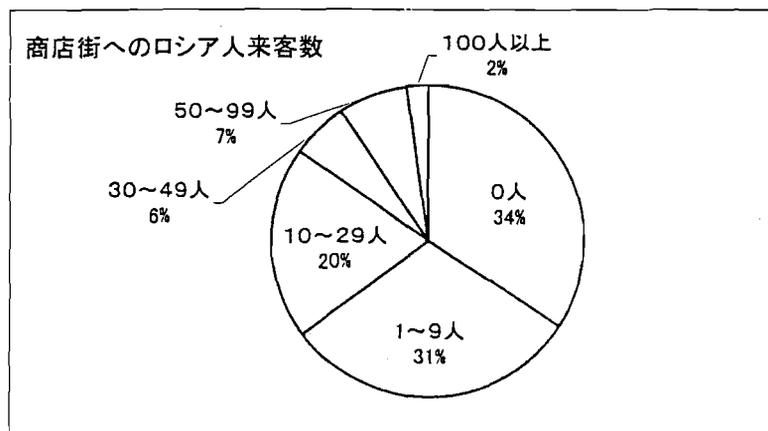
この項目の回答は85店である。

ロシア人客については、「来たことがある」が56店（66%）、「まったくこない」が29店（34%）となっている。

「来たことがある」が56店については、「1ヵ月1人以上9人以下」が26店（31%）、「1ヵ月10人以上29人以下」が17店（20%）、「1ヵ月30人以上49人以下」が5店（6%）、「1ヵ月50人以上99人以下」が6店（7%）、「1ヵ月100人以上」が2店（2%）となっている。

商店街へのロシア人来客数

1ヶ月のロシア人来客数	0人	1～9人	10～29人	30～49人	50～99人	100人以上	合計
店数	29	26	17	5	6	2	85
割合	34%	31%	20%	6%	7%	2%	



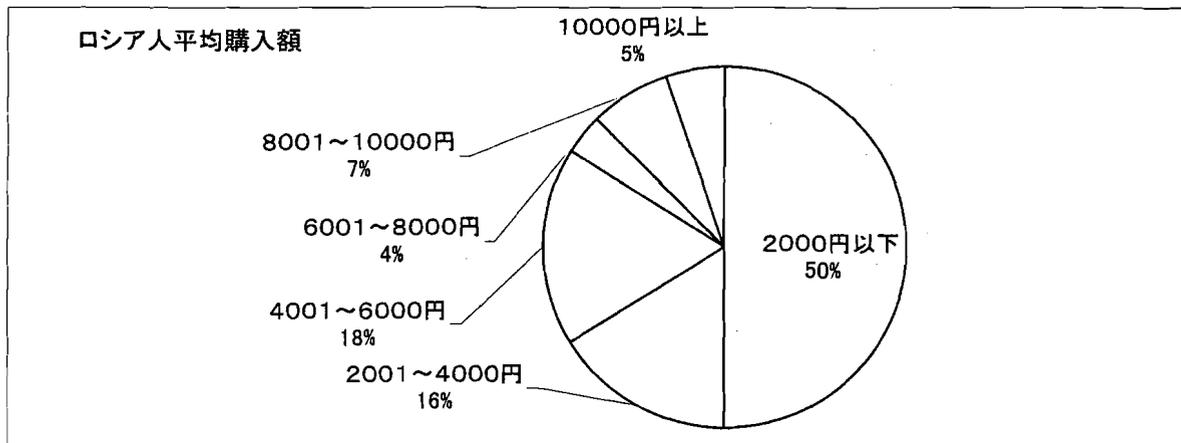
《ロシア人の平均購入額》

ロシア人が「来たことがある」56店での1人あたりの平均購入額については、「2,000円以下」が28店(50%)、「2,001円から4,000円」が9店(16%)、「4,001円から6,000円」が10店(17%)、「6,001円から8,000円」が2店(4%)、「8,001円から10,000円」が4店(7%)、「10,000円以上」が3店(5%)となっている。

購入品については、婦人服・紳士服・靴・長靴・スニーカー・化粧品・家電製品・化粧品・工具・台所用品など多種に渡っており、金額が高い物で、ネックレスなどの装飾品・高級靴などの購入がある。

ロシア人の平均購入額

1人あたりの平均購入額	2000円以下	2001~4000円	4001~6000円	6001~8000円	8001~10000円	10000円以上	合計
店数	28	9	10	2	4	3	56
割合	50%	16%	18%	4%	7%	5%	

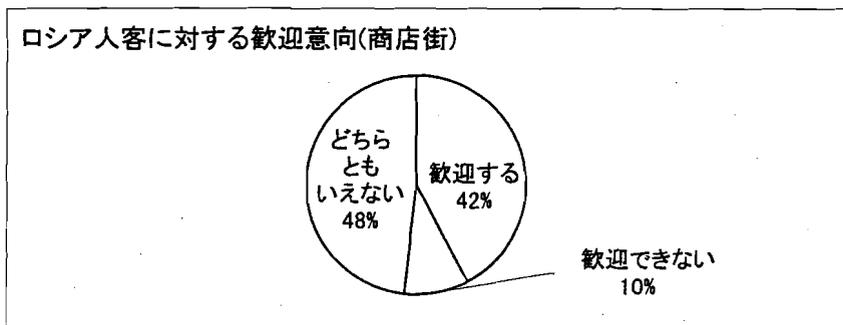


《ロシア人客への歓迎意向》

回答のあった85店のうち、ロシア人客への歓迎意向では、「歓迎する」が36店(42%)、「どちらともいえない」が41店(48%)、「歓迎できない」が8店(10%)となっている。また、「万引きが多い」という意見が多くあった。

ロシア人客に対する歓迎意向

歓迎意向	歓迎する	歓迎できない	どちらともいえない	合計
店数	36	8	41	85
割合	42%	10%	48%	



【飲食店】

《ロシア人来客数》

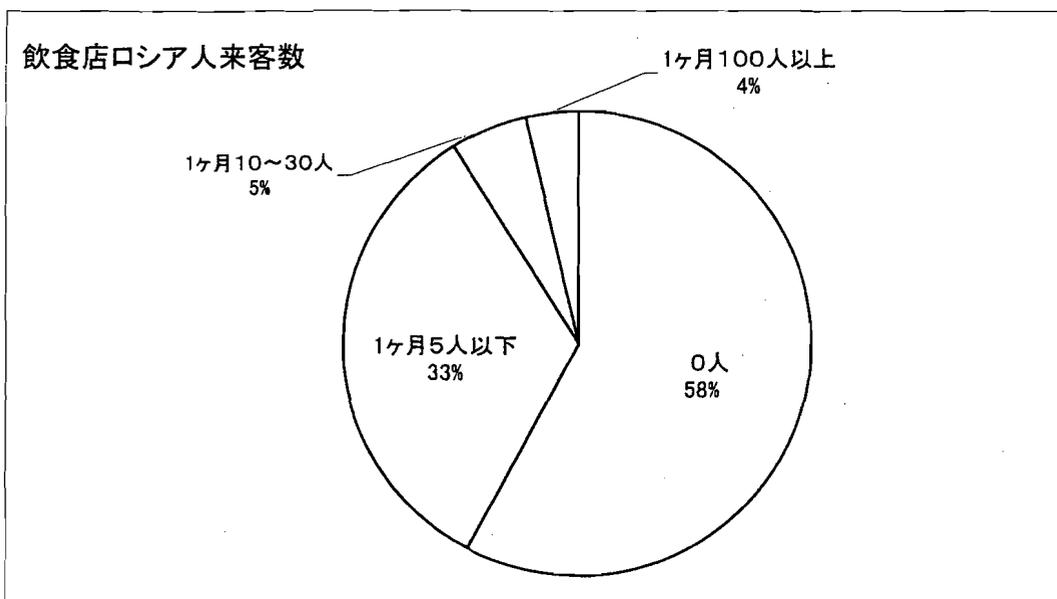
この項目の回答は57店である。

ロシア人客については、「来たことがある」が24店（42%）、「ひとりも来ない」が33店（58%）となっている。

「来たことがある」が24店については、「1ヶ月5人以下の来客」が19店（21%）、「1ヶ月10人～30人」が3店（5%）、「1ヶ月100人以上来客する」が2店（4%）となっている。

飲食店へのロシア人来客数

ロシア人の来客数	0人	1ヶ月5人以下	1ヶ月10～30人	1ヶ月100人以上	合計
店数	33	19	3	2	57
割合	58%	33%	5%	4%	



《ロシア人の平均飲食代》

ロシア人客が「来たことがある」24店の平均飲食代については、「2,000円以下」が13店(50%)、「2,001円以上3,000円以下」が8店(16%)、「3,001円以上」が3店(17%)となっている。

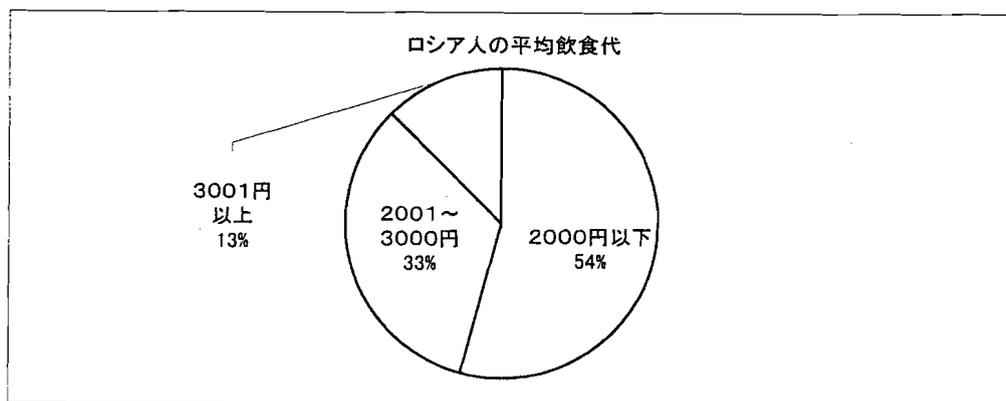
ロシア人の飲食傾向としては、レストランなどでは飲食代が2,000円~3,500円程度であり、ビールを中心にスペアリブや焼き鳥、サラダなどを飲食している。

寿司屋ではビールとおこのみ寿司で3,000円程度のケースが多い。

ラーメン店やそば店などでは、ビールとあわせて1000円程度の金額を使っている。

ロシア人の平均飲食代

1人あたりの平均飲食代	2000円以下	2001~3000円	3001円以上	合計
店数	13	8	3	24
割合	54%	33%	13%	



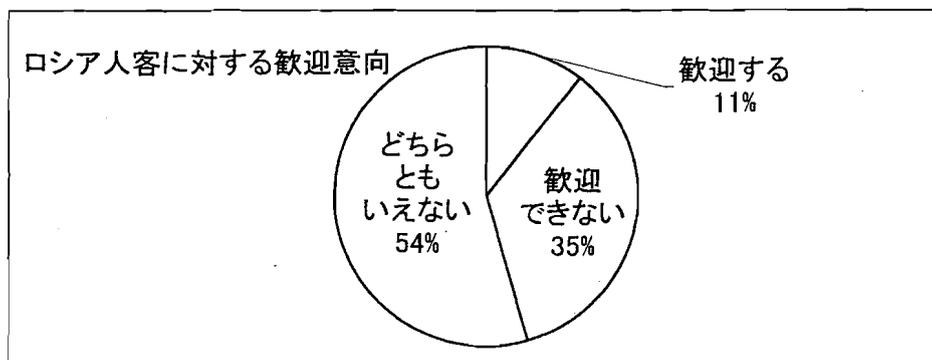
《ロシア人客への歓迎意向》

回答のあった57店のロシア人客への歓迎意向については、「歓迎する」が6店(11%)、「どちらともいえない」が31店(54%)、「歓迎できない」が20店(35%)となっている。

歓迎出来ない意見では、「言葉が通じないので、考えていることが解らず不安である」という答えが一番多く、ほかに、「日本人客が嫌がる」、「酒を持ち込む」などの意見があった。

ロシア人客に対する歓迎意向

歓迎意向	歓迎する	歓迎できない	どちらともいえない	合計
店数	6	20	31	57
割合	11%	35%	54%	



7-(4) 観光施設などの動向

観光施設などでロシア人の入館者数については、小樽水族館が特に人気があり、2000年3月～11月の開館期間247日で300人以上があった。小樽市博物館及び市立小樽美術館は、1ヶ月2～3人程度であり、小樽交通記念館及び市立小樽文学館は、年間2～3人程度である。

8. 調査結果のまとめ

今回の調査結果で、年間3万人前後のロシア人や貨物が本市に来ることによる経済波及効果は、300億円近くになると推計されました。

また、ロシア交流による経済効果は、「ひと」と「もの」の交流により、港湾関係業者だけでなく、市内の商店街や観光施設などにも影響が及んでおり、本市の経済面でも重要な役割を担っていることが判りました。

さらに、市内の商店街や飲食店でのロシア人に対する意識調査では、商店街はロシア人に対する受入れ志向が多く、ロシア人の購買力に期待する面が見受けられましたが、飲食店では「言葉の違い」が障害となり、受入れ志向は低いことが判りました。

また、ロシア人の小樽の印象に関する調査結果では、ロシア人の半数以上が小樽へ好意的な意見があるものの、「言葉の違いによる障害」、「ロシア語表記の必要性」の意見が多くありました。

今後、ロシア人向けパンフレットやロシア会話集、ロシア語講座などの充実につとめるとともに、ロシア語表記の案内板などの拡充をはかり、相互理解がしやすい環境づくりやロシア人が行動しやすい環境整備を官・民が一緒になって進めていくことが、ロシアとの理解を深めていくものであります。

また、この調査結果を踏まえ、港湾振興策の基礎資料として活用を図るとともに、市内の経済界や関係業者と連携し一層ロシアとの交流につとめ、本市の経済振興に結びつけてまいりたいと考えます。